

森中だより

厚木市立森の里中学校 1月1日現在
1年生 77名
2年生 70名
3年生 86名
全校 233名
発行責任者 西山 幸太郎
TEL (046) 248-0727



HP <http://www.edu.city.atsugi.kanagawa.jp/morinosato-js/>

新年を迎え、決意新たにスタート

学校長 西山 幸太郎



1月8日、3学期始業式には、生徒・職員も新たな気持ちで始業式に臨みました。さて、いよいよまとめの3学期を迎えました。3年生はいよいよ受験という自分の未来を切り拓くときです。そして森の里中学校から翔く学期です。入試に向け、計画的な学習と健康管理をしっかりと、みんな笑顔で卒業式を迎えてほしいと思います。

1・2年生は進級の準備です。1年生は、4月に入学してくる新入生の頼れる先輩となるべく、さらに学習、部活動や係活動等にしっかりと取り組んでほしいと思います。

2年生はいよいよ最上級生。森の里中学校のリーダーとしての役目を果たすときです。3年生の活躍を間近に見てきた2年生は、きっとさらに高い目標をもって学校をリードしてくれることを信じています。リーダーになるとは自分で考え、判断し行動する場面が多くなります。この3学期、意識した行動を心がけたいものです。

3年目の学校スローガンの「学ぼう平和 つくろう未来 仲間と共に！」の下、学年の総仕上げと次へのステップの学期にしましょう。

保護者・地域の皆様には昨年本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただきましてありがとうございました。体育大会や文化発表会への参加、ご支援をはじめ、さまざまな場面で温かいお心遣いをいただきました。深く感謝申し上げます。

職員一同、生徒同様に学校スローガンの下、よりよい学校づくりに励んで参ります。本年もどうぞよろしく申し上げます。



生徒会長 I・T さん



今日から3学期が始まります。3学期は三か月と短い期間ですが、その中にもいくつかの行事があります。

一つ目は、1月21日(火)に行う新入生学校見学会です。来年度の新入生が森中を見学します。生徒会本部では新入生に学校をわかりやすく説明できるように準備を進めています。みなさんも新入生が見学する時、いつもと変わらぬしっかりとした態度で授業や部活動に臨み、良い新入生学校見学会にしましょう。

二つ目は、3年生を送る会です。生徒会本部、1学年、2学年委員を中心にみんなで笑顔になれる会にしようと話し合っています。詳しい内容はまだ秘密ですが、素晴らしい会になるよう、みなさんご協力をお願いします。

三つ目は、3月17日(月)に行う臨時の生徒総会です。これは、今後予想される生徒数の減少にとめない、生徒会組織や仕事内容について見直し、新たな生徒会組織をつくるために行います。今後の流れは本部が新生徒会組織案をつくり1月16日に原案をみなさんに配布します。それを受けて本部でさらに検討し、3月17日の臨時生徒総会で採決をとります。これは、来年度からの生徒会活動に大きく関わる重要なものです。そのことをよく意識して意見を出してください。みなさん、たくさんの意見をよろしくお願いします。

三学期も協力し合い、より活発な生徒会活動にしましょう。～始業式「生徒代表のことば」～

今年度の文化部門の表彰

今年度も作文・詩・短歌・絵画等の多くの分野で、森中生が賞をいただきました。心温まる作品や現代社会の課題を提起した作品等がありました。

- 厚木愛甲地区読書感想文コンクール
優秀：N・Tさん 優良：O・Yさん、O・Iさん
- 朝日新聞「八月の歌」(短歌)の選出による厚木市教育長表彰 M・Hさん
- 明るい選挙啓発ポスターコンクール
佳作：H・Nさん、K・Nさん、S・Mさん、M・Mさん
- 神奈川県統計グラフコンクール
パソコンの部 神奈川県会議長賞：K・Sさん
RFラジオ日本賞：K・Yさん
学校賞：森の里中学校
- 和伝文学賞
詩の部 佳作：T・Kさん 短歌の部 佳作：H・Yさん
俳句の部 佳作：K・Tさん 作文の部 佳作：T・Sさん
- 中学生の税についての作文
佳作：N・Mさん、T・Rさん
- 県中学校作文コンクール
会長賞：H・Nさん ※裏面に作品を掲載しています。



(統計グラフコンクールの作品)

新年を彩る生け花



夜中まで勉強して疲れても
学校行くと疲れも忘れる

位いた人怒った人や笑う人
いろんな皆を知ることができた

「がんばれよ」その一言が嬉しくて
兄の背中にそっとありがと

嫌なことあったら母に八つ当たり
余裕ない自分すごく小さい

もう無理とわたしの心がつぶやくが
諦めるなよ頑張れ自分

受験生負けるな自信はにあり
考えてからため息が出る

(本歌取り)
シャーペンがすらすら動く夢を見た
夢と知りせば覚めざらましを

(本歌取り)
世の中に絶えて入試のなかりせば
冬の心はのどけからまし



【1月のおもな予定】

- 13日(月) 成人の日
- 14日(火) 生徒議会、教育相談(～24日)
- 21日(火) 新入生学校見学会
中文連(美術科:市民ギャラリー～27日)
- 22日(水) 放課後諸活動停止
- 25日(土) 厚木市中学校バレーボール大会
- 26日(日) あつぎ駅伝競走大会
- 27日(月) 専門委員会(2月分)
- 28日(火) 中文連(技家・特別支援:市民ギャラリー～2月3日)
- 29日(水) 授業参観、新入生保護者説明会
公立高校出願
- 30日(木) 実力テスト(1年)
厚木市学力・学習状況調査(2年)
- 31日(金) 生徒議会(2月分) 学習室ブロック交流会

【2月のおもな予定】

- 3日(月) 全校集会・生徒集会、部活部長会
- 7日(金) こどもアート展(～15日)
- 10日(月) 私立高校入試(～12日)
- 11日(火) 建国記念の日
私立高校合格発表(～13日)
- 14日(金) 公立高校入学者選抜(～18日)
- 19日(水) 学年末テスト前諸活動停止(～23日)
- 24日(月) 学年末テスト(～25日)
- 27日(木) 公立高校合格発表



(年末地域清掃)



(クリスマスボランティア)



平和について私が今、できること

蝉がうるさい。八月のそのわめきが、今年は戦没者の叫びのように感じて恐ろしくなってしまった。蝉の鳴き声とテレビで見たドキュメンタリー。そして、以前読んだ「白旗の少女」とが交じりあって、現代っ子の私は恐怖にめまがした。

広島、長崎の原爆、沖繩の地上戦、大都市への空襲。テレビや授業で何度も何度も聞いた。かつて日本で起きたこれらの出来事について、真実を知る若者は少ないのではないか。きちんと学び、理解しなくてはいけないと強く強く思う。

私もかつて、戦争についてよく知らなかった。知ることに必要性を自分からは感じていなかった。「平和ボケ」だ。そんな私が、「戦争」について深く考えようと思ったきっかけは、この夏読んだ「白旗の少女」である。七歳の少女が生き抜くにはあまりにも過酷な状況、人が死んでいることに慣れてしまうような惨状。沖繩の地上戦での様子は、平和ボケしていた私に戦争の悲惨さ、愚かさを改めて思い知らずものであった。このままではいけない。どれだけ怖くても、過去日本に起こった出来事を、きちんと知り、理解しなくてはならない。そう強く思った。私自身、心の奥底では目をそらしたままではいけないと思っていたが、勇氣が出なかった。

九歳のとき、興味本位で「はだしのゲン」を開いたことがある。本の中に描かれていたことは、いまだに目に焼き生きているわけでも、恵まれているわけでもない。現に今、シリアでは、化学兵器によって苦しんでいる人がいる。手足をばたつかせて苦しむ人、自分と同じくらいの年の子供達が虚ろな目で横たわる姿。思わず目を背けたくなるような悲惨な映像だった。同じ地球上で、こんなにも苦しみ悲しんでいる人がいる。その事実が胸が痛い。そして、とても恐ろしい。人は皆、平和を望むはずなのに、なぜ狂気の道へ走ってしまうのだろうか。

明日、米一粒も口にできない人、武器を持って戦わなければいけない人、学校に通いたいけど通えない子供、きつとたくさんいるのだろうか。平和な国である日本に生まれ、明日の食べ物に困ったことも、武器を持って戦わなければいけないことも、学校に通いたけれど通えなかったこともない。本当に自分は恵まれているのだ。しかし、普段生活していると、それが当たり前のように感じてしまうことがある。そして、そうして恵まれている生活を「当たり前」だと思ってしまうとき、「幸せ」だと感じられなくなるとき、人間は、欲深くなる。その「もつと」「もつと」と思う気持ちこそが、戦争を引き起こす原因の一つなのではないのだろうか。

同じ地球上で戦争を行い、苦しんでいる人がいることを、私達は知らなければならない。

そして、「戦争」について、日本も他人事ではない。日本の平和は、日々おびやかされつつあるように感じる。例えば、中国、韓国との領土問題。何度も領海に侵入してきたり、攻撃的な姿勢をとる様子に、もしかしたら戦争にな

ついて離れない。焼きただれた肌、飛び散る真っ赤な血、人が人とは思えない姿をして死んでいく。それはまさに地獄絵だった。私は、平和な時代に生まれ、それが当たり前だと思っていた。だからこそ、とても衝撃を受けた。それ以来、私は「戦争」ということに触れるのが、とても怖くなってしまった。だからこそ、「はだしのゲン」の閲覧を制限しようとする動きも、わからなくはない。しかし、過去実際に起こった事実であり、学ばなければいけないのだと思う。十五歳になった今、やっと向き合う準備ができた。知ろうと思うことができるようになった。

祖父は戦争経験者であった。当時まだ小さかった祖父は田舎で疎開していたらしい。実際に戦地へ行ったわけではないが、祖父の話は戦争を身近に感じさせるものであり、一言一言にとても重みがあった。祖父は疎開中、食べ物にとても困ったらしい。だから、祖父はご飯粒を一粒だつて残さない。戦争中の経験からだ。

祖父は私に

「ご飯粒、一粒だつて残すな。」

とよく言っていた。しかし、その理由がわかっていなかった私は、

「うるさいなあ。一粒くらい、別にいいじゃん。」

などと思っていた。祖父の話聞けば聞くほど、そんなふうに思っていた自分が恥ずかしくなった。私がどれだけ平和で恵まれた世界に甘えていたかを、まじまじと思い知らされた。

しかし、すべての人々が、私たちのように平和な世界に

るかもしれないという危機感を覚えた。また、北朝鮮のミサイルがとんでくるのではないかと、かつての戦争が思い起こされてゾツとした。日本の平和というのは、とても危ういものなのではないかと、改めて考えた。平和はいつ壊れてもおかしくはない、そんなギリギリのラインにあるのではないか。

今、日本では憲法を改正しようとする動きが見られる。憲法を改正することで、本当に戦争を始めてしまうのではないかと、私は初めて聞いた時とても怖くなった。しかし、日本を守るために憲法を改正する必要があるのかもしれない。難しい問題だ。誰かの命を犠牲にしなければ、国が守れないなどという時が、将来の日本にまた来てしまうのか。それは平和だと私は心から思えるのだろうか。

ただ一つ確かなことは、二度と「戦争」をしてはいけないということだ。そして、中学生だからといって他人事ではないけないということである。確かに、私たちは選挙で投票する権利はない。だが考える必要はあると思う。日本を創っているのは、私たちだ。先人が多くの犠牲の上に創りあげてくれたこの平和を守っていけるのは、私たちなのである。戦争について向き合い、後世に伝え、この平和を引き継いでいくことこそが、まず私たちのやるべきことだ。いや、義務であり、責任だと思う。

そう考えたら、ふと、さっきまでうるさかった蝉の叫びが、再び音量を増したように感じた。でも、もう恐怖だけではなくになった。今、「知って伝えていかななくてはいけない」という強い気持ちでいる。今度は、蝉の声が私の強い決心に背中を押してくれているように感じた。